

イニシエーションスピーチ

豊岡 博幸会員

■まずは自己紹介

信州上田出身です。母が4人兄弟の長女で豊岡の家を継いだのですが、七人の女性に囲まれ男一人で生まれたという女系家族でした。高校まで地元で過ごし大学は東京ですが、その時から大きく変わっていききました。「井の中の蛙大海を知らず」長野から出てきて東京で大海を知るのですが、いろいろ転機が見えてきました。何も考えずに大学にきたというのがあり、自分が何も考えてなかったことに腹立ちを覚え、そこから自分探しの旅がスタートしました。当初理系だったのですが、大学も途中で移りました。親とも喧嘩しお金も足りなくなり、電気・水道が料金未納で止まり家賃も滞納、学費が払えないので新聞社の新聞奨学金を1年間経験しました。卒業後、ジャーナリストを目指していたので通信社に入社したのですが、自分の意思とは関係なく、通信社といえども体制側の意向に沿った方向の視点でしか基本的に難しく、いろいろあってフリーになり、26才のときに起業しました。その頃、新聞社の仲間から仕事をいろいろ回してもらっているなか、当時大学共通一次が導入されましたがこれに対しての情報が少ないため、その月刊の入試ジャーナルの編集長をやれと言われました。ある時、Mook誌（ジャーナル・BOOK・マガジンをあわせた本）を急遽作るようになったのがそもそも会社を作るきっかけです。1日で、全部税理士等いろんな人たちを揃えてくれました。当時のバイトだった早稲田の学生を集め名前を決めたのですが、会社名「セ・ラ・ヴィ」は「C'est la vie（これが人生さ）」、ケセラセラというイメージがあり、第3案目か4案目に入れていました。1、2案目の僕の案は、類似している名前があり登録できず没になり、この名前になりました。また結婚資金を起業に使ったため結婚は1年遅れました。その前の年に、今年結婚しますと言ったのにしていないので、騙されていると思われるといけないうことで、その翌年は父親を連れて詫言を入れに行っただのを覚えております。いろいろあって現在に至り、子供は男2人、長男は結婚していて孫が3人います。

■仕事の話

20代の頃はヒットメーカーでした。神奈川新聞社が出しているグラフ誌「神奈川グラフ」がありますが、企画として僕が持って行ったのは高校総体です。新聞には、優勝や、それ相当のところまでいかないと掲載されないのですが、そのとき何十周年記念の神奈川高校総体があり、全種目、選手の写真をいっぱい撮り、データも1回戦から全部載せよう、というのに変えました。手間暇かかるため新聞社ではやらないのですが僕が引き受けて、学生を使ってやったらこれがヒットしました。また、東京ニュース通信社「TVガイド」が有名ですが「スター年鑑」を提案しました。TVガイドの中で一番売れるのは、年末年始の合併号という2週間連続する合併号なのですが、それにヒントを得て、スターのプロフィールや来年出演する番組をまとめた本が「スター年鑑」です。各局にいくとデータが全部もらえるので、あとは各タレントの所属事務所に承諾をとるだけなのですが、力技が必要で、僕には、早稲田の学生ですが非常に仲間を多く使えたので企画提案したところ、増刷につぐ増刷で200万部という大ヒッ

トをしました。このように企画アイデアを買われ、各雑誌社からMook誌の企画会議だけ出るように言われ、企画提案だけでお金をもらっていました。

30代の頃はNTTの仕事をしていました。もともと理系だったので、ネットワーク通信や、LANの構成図を読むことができたため、それを技術者以外にもわかるように、NTTデータの金融システムのパンフレットを作っていました。60%ぐらいはうちの会社でやっていました。

40代50代は不動産広告です。20代の頃、当時不動産広告の中でNo.1だった会社にちょっと関係していることもあって知っていたのですが、40代50代の頃に不動産広告が一世風靡してきました。プロモーションフィーが違い過ぎるためです。不動産広告の場合、例えば10億とかプロモーションフィーを平気でかけるのでいろいろなことができ、この業界は面白いなと思い不動産広告の方に入ってきたのですが、プレゼンが強かったのでどんどん依頼が増えていき、当時、不動産広告やっていた広告代理店でセ・ラ・ヴィを知らない会社はあまりいなかったというぐらいやっていました。ものすごく忙しく、スタッフは3倍に膨れ上がりましたし、銀座のオフィスはほぼ不夜城状態でした。また商社やデベとの協業で、一般の広告代理店以外にも商社のお客が増え、商品企画開発もしていました。

今の仕事は事業開発プランナー、地方創生プランナーです。各デベロッパーのプロポーザルの企画提案（私鉄沿線の駅前開発）、アパート経営投資事業（アパートを作り、その経営サポートをして売る）、サーキットシティ事業共創プロジェクト（サーキット周りにホテルコンド、会員権等、富裕層向けに作るのと画策）、そのほか実家の耕作放棄地の活用、地元への恩返しも含め、うまく活用できないかと考えております。今は長野県とか東京事務所とかあるのですが、そこと連携して農業創成や地域活性、農業がいま廃れていまずので、何とかしようと思って立ち上げています。山形県南陽市で、そこで作った野菜やブドウがありますが、それを売ってもそのものは特異性(USP)がないので売りにくいです。形を変えたりとか、魅力つけるような形にしていくと売れます。単純にブドウをブドウで売るよりは、ワインにした方が売れやすい、ということです。南陽市の場合も、いろんな果物が獲れるのですが、果物そのものを売るのではなく、東京から有名なパティシエを連れていき、そこでオリジナルのスイーツを作ると売れます。東京のお店のファンがそこへ食べに行ったり買いに行ったりするためです。加工することで違う価値ができる、それによって変わりますが、そういう意味で、なんか地方に違うものを向けながらやっていきたいということを考えています。「トカイナカ」都会と田舎の生活を今後していきたいな、と思っております

■豊岡といえばお酒の話

お酒の失敗は数知れず、今まで山のように失敗しております。大学の友達の結婚式で、式の前から飲み、式でも飲んで、飲みすぎて1回トイレに出たのですが酔酩してしまい、その式場が広いのもあり会場がわからなくなりました。ここだ、と思って入った席でまた飲んでいたら、新婦のお色直しの入場があり、なんと別人でその友達ではなく、違う人の式に参列して飲んでた、というのがありました。東京駅チケット紛失事件というのは、大阪に仕事で行き、仕事終わった後飲んで酔酩してしまい、チケットは買ってあったのですが、グリーン車でまたお酒飲んで、東京駅に着いたら鉄道警察の人に囲まれていました。手に入場券を持っていたので、大阪からそれだけで来ちゃったと思

われたらしいです。料金払おうとして財布をみたら財布にチケットが入っていたという、このように酒の失敗は山のようにあります。

逆に酒の成功も少なからずあります。独立のときも皆酒でつきあった仲間で、酒を飲みに行くと仕事が必要舞い込むくらい、それで起業できたというのがあります。一番大きかったのは、九州電力の瓦橋会長ですが、三菱商事の社内報のルポライターをやっていたことがあり、九州に仕事で行った時の話です。九州は西部ガス、西鉄、九電というのが三大企業で、三菱商事に九州支社ができるというので、ご挨拶かたがたそれぞれトップの方と席をもったのですが、瓦橋さんと非常に馬が良かったです。彼が九州独立論、というのを言い出し、文化は九州だ、独立できるんだ、と言っていたのですが、その話を業界誌に僕が書きたいと我儘を言ってコラムで書いたところ、瓦林さんが酒の席での話をよう載っけた、と言っていきなり家にエアチケット送ってきて、九州までお酒を飲みに行ったということがありました。その後いろいろ仕事を紹介してくれたりとか、結構楽しかったり、枠を超えて付き合えるのもお酒、友人も趣味もすべて酒の縁です。ご存知のとおりこんな体なので、かなり体が悪く健康診断に行くと指導を受けるわけです。そのときに「人が生きて行くために何が必要ですか」という話をするのですがやはり、水と空気、と言います。水と空気は僕にとって水はお酒であり、空気は煙草ですよ、と。これがなければ、やっぱり難しいです。酒は万病の元、よくないものもあるし、百薬の長、というのがあります。もちろん体にとって酒は万病の元かもしれませんが、心にとっては百薬の長ではないかと思って、いまだ研究中でやめられない、というのが僕のお酒です。

■ロータリークラブへの参加の理由

もともと東京神宮 RC にいまして、牛島会長と同じくらいの入会です。ポールハリスがシカゴで当時商業道徳が乱れている中で、友達とお互い信頼できる公正な取引をして、仕事上の付き合いがそのまま親友関係に発展するような仲間集めたいというところから RC が立ち上がったというのがあります。僕と牛島会長は、昔は喧嘩もしたりしましたが、そこから親友関係に発展した、お互い違う RC でしたけれども、まさに RC の基本をいっているのが、牛島会長との関係かな、と思っています。また大きかったのは茶楽会のメンバーです。僕は本当に感謝しています。松島さんの「気風の良さ」、佐々木さんの「生真面目さ」、大原さんの「心遣い」など、それぞれの人が個性的で口達者ですが、一番感じるのは江戸っ子だなあ、と思っているところです。曲がったことは嫌い、粋とかいなせとか、そういったものを一番感じさせてくれて、その人柄が非常に気に入ったので、今回茶楽会という中と一緒に入ろうかなということでありました。

あと、大谷翔平の曼茶羅ノートですね。大谷翔平の真似をしてみようかと思って、人生の曼茶羅ノートを書いてみました。真ん中に目標書いて、目標の横に、そのために何をするか、というのを書くのですが、大谷翔平の中で面白かったのは、スピードのため、体力のため、とか、変化球や、切れがこう、とか書いてある中に、運というのが書いてありました。運を掴むために彼はごみ拾いという奉仕をしている、ということが書いてあって、曼茶羅ノート面白いなと思い、僕もいくつか書いてみました。酒の為にこうしよう、とか、健康のためにこうしよう、とか書いていたのですが、大谷選手は運を掴むためにごみ拾いをしたけれども、豊岡選手は何のために考えたかという、酒を飲むた

めに皆様と奉仕活動をするということで、RC に入ろうと考えてロータリーに参加しました。

ですから、今後良き人生の友として皆さんと一緒に親睦を深めてお酒を酌み交わしたいな、というふうに考えております。皆様との付き合いをよりよくしていきたいので、よろしくお願いします。